

新治小学校だより



ひびく心 はずむ体 見つめる目

～新治のよさを持続して生かしながら、
よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和4年度

1月号

R5年1月10日



「6年生すごい…(1年生の感想)」～新治ラリーを振り返って～

校長 川島 広子

めっきり寒さが厳しくなってきました。12月中旬頃から「校長先生～、霜柱があったよ～」とか「家の外にこんな氷がありました～」と、霜柱や植木鉢の受け皿にできた氷を持ってきて見せてくれる子がいたり、「校長先生、手が冷たいよ～」と真っ赤になった手を重ねてくる子がいたり、新治の寒い冬を子どもたちと一緒に実感している今日この頃です。

令和5年が明けました。昨年は運動会や修学旅行をはじめとする大きな行事も無事に開催でき、また、通常の学校生活も大きな混乱なく過ごせました。地域の方々や保護者の皆様の子どもたちに対するご配慮とご協力のお陰だと感謝しております。昨年に引き続き、今年もよろしく願いいたします。

さて、新治小学校の大きな学校行事の1つである「新治ラリー」と呼ぶ全校遠足が12月6日に行われました。新治の自然と触れあいながら、異学年と交流することを目的とし、1年生から6年生を6つの縦割りグループにして、新治市民の森や近隣の公園などを歩く行事です。歩くコースは事前に6年生と教員が下見をして決め、決めたコースの特徴を生かしたゲームや遊びを6年生がリードして行っていきます。一緒に付き添ってくださった市民の森愛護会の方のお話しによると、この新治ラリーの歴史は長く、20数年も続く全校行事だと教えていただきました。このゲーム内容も、6年生が教えてくれたゲームを、自分たちが6年生になったときに下級生を楽しませてあげるという形で、代々傳承されているそうです。

当日は生憎、天気予報が外れてしまい小雨が降る中のラリーとなってしまいましたが、子どもたちはたくさんのもを得たようです。初めて参加した1年生の感想を読むと「自然ビンゴが楽しかった(“どんぐり”などのお題が出されてそれを自然の中から集めるゲーム)」「笹舟流しが楽しかった。6年生の説明が上手だった」「他の学年と仲良くできた。ドキドキとワクワクとウキウキした。大根抜きゲームが楽しかった」「だるまさん転んだがウキウキした。自然と触れ合えた」「6年生が最後まで説明できてすごい。ビンゴやドロケイが楽しかった」「違う学年と一緒に遊びをできたから楽しかった」など、6年生が下級生のために一生懸命自然を生かしたゲームを考えたり、分かりやすい説明を心掛けたりしていたことが分かりました。ラリー終了後、5年生は「来年は自分たちがリーダーだから、今年の6年生のように頑張らなきゃ!」「小雨が降っていたので6年生がゲームを臨機応変にアレンジしていて凄かった。来年は見習って頑張りたい!」と言っており、6年生が下級生に与えたものがとても大きかったようです。

このような異学年交流は、子どもたちの社会性を育むのが目的です。昨今、挨拶ができない、約束を守れない、自分勝手な行動をするなどの子どもの社会性に係る問題を耳にしますが、それらの要因として、人と関わりたいという意欲の低下があるようです。かつて社会性は、近所の子ども同士での外遊びや、祖父母と暮らす大家族での関わり、また、近所の大人との関わりなどの中で自然と育まれていました。この社会性を育む場があったからこそ、大人になった時に社会参加したい、誰かの役に立ちたいという意欲に繋がっていました。その構造が成り立ちにくい今、学校教育での異学年交流には大きな教育的価値があります。これからも新治の自然の中で、市民の森愛護会の皆様や地域コーディネーター、支援員の皆さまと新治ラリーを長く続けられることを願っております。皆様ご協力ありがとうございました。 ※新治ラリーの写真は裏面に掲載しています。

